

ここにしかない「世界標準」を 1/24

地域の持つ「場の力」を探る知事広聴が開催されました

知事広聴「平太さんと語ろう」が島田市川根文化センターチャリム 21 で開催され、川勝県知事と島田市・川根本町において活躍されている 6 人による意見交換会が行われました。

本町から農事組合法人「川根美味しいたけ」西原陸実代表理事(久野脇区 = 53 歳)と NPO 法人「かわね来風」濱谷友子理事兼事務局長(高郷区 = 51 歳)が登壇しました。知事は「この地域には茶草場農法や南アルプスエコパークをはじめ、世界標準となるべき素材がたくさんある」と地域発展に期待を寄せました。



「まちづくりに関する仕事をもっと NPO に」と濱谷さん

1/11

1/18

意外と簡単、タッチパネル操作

役場企画課主催、スマートフォン(多機能携帯電話)やタブレット端末について学ぶ



携帯電話を使った防災・防犯対策も紹介されました

情報通信機器を利用できる知識や技術を身に付けてもらうことを目的として「シニア向けスマートフォン&タブレット教室」が山村開発センターと役場総合支所で開催され、46 歳から 83 歳までの町民 41 人が受講しました。

受講者にはシニア向けスマートフォンが 1 台ずつ貸し出され、講師を務めた NTT ドコモ海支社のインストラクターから、電話やメール、インターネットなどの利用方法を学びました。

受講者からは「思っていたよりも使いやすく興味が出てきた」といった感想が聞かれました。

「高齢になっても自分らしく」 1/31

老後を上手に暮らしていくためのコツを学ぶ「古い支度講座」が開催されました

老年となつてから上手に暮らしていくためのコツを学ぶ「古い支度講座」(町地域包括支援センター主催)が文化会館で開催され、中高年を中心に町民 252 人が受講しました。

長寿社会開発センターの石黒秀喜さんが講師を務め、生き立ちや趣味、目標などを書き出す「上手に老いるための自己点検ノート」を使った老後の自己実現法について講演しました。石黒さんは「認知症はお互いさまで助け合う仕組みが大切。『自己点検ノート』を活用し、自分らしく生きよう」と受講者に呼び掛けました。



関心が高く、会場はほぼ満席となりました

「梅津神楽」16 演目を奉納

1/18

五穀豊穡や家内安全、心身健康などを祈願しました

県指定無形民俗文化財の「梅津神楽」が接岨区の接岨峡温泉会館で奉納されました。

多くの町民や神楽ファンが訪れる中、夕方から深夜にかけて梅津神楽保存会のメンバーが優雅な舞を披露し、五穀豊穡や家内安全、心身健康などを祈りました。

ユーモラスな所作が人気の「恵比寿大国の舞」や哀愁漂う音色に乗せる「鬼の舞」、面を着用する「金丸の舞」など 16 の舞が演じられ、普段は静かな山あいの集落に笛や太鼓、にぎやかな笑い声やかけ声が響き渡りました。



客席も一体となり盛り上がった「金丸の舞」

1/30

1/31

「観客を意識して演じよう」

文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」として上保さんの「表現教室」が開催されました



「なかよしの森発表会」に向け上保さんから指導を受ける児童

本町出身で劇団たんばば代表の上保節子さんが中川根第一小を訪れ、「表現教室」を開催し、全校児童 52 人が参加しました。

全校児童が参加した合同授業では、顔の筋肉を動かす遊びや全員で詩を輪唱するなどして、発声や体を使って表現することの気持ちよさを学びました。また、学年別の授業では、1 週間後に開催される「なかよしの森発表会」に向けて、身ぶりの大きさやセリフを話すタイミングなどの「観客を意識した表現」について、上保さんから指導を受けました。

ふるさとのぬくもりを伝える

1/18

恒例の昔ばなし語り部まつりを開催しました

中川根語り部の会(澤井初美会長)は「昔ばなし語り部まつり」を文化会館で開催しました。約 200 人の観客は、メンバー 5 人による民話の朗読をはじめ、ゲストによる語りや歌、朗読を楽しみました。

第 15 回記念公演となり澤井会長は「15 回の節目を迎えることができ、大変うれしく思う。静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団から『第 3 回ふるさと貢献賞』の受賞も決まり、今後も地元へ伝わる民話を皆さまにお伝えしたい」と喜びの報告を行いました。



気持ちを込め、優しい心を育む朗読で観客を魅了